

## 2015 ほろのべ 核のゴミを考える 全国交流会への参加呼びかけ

日本が原子力政策をスタートさせたのは1954年です。そして1956年に原子力委員会が設置され、1967年に「原子力利用に関する長期計画」を決め、核燃料サイクル事業が始まりました。この間「核のゴミ」に関する検討はされないまま「安全神話」を作り、原発を増やし続けました。結果2011年3月の福島原発事故を引きおこしました。

国は2000年5月に、何らの国民的議論もないまま「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」を一方的に決め、その実施主体として同年10月にNUMO（原子力発電環境整備機構）を設立。2002年12月から処分場候補地の公募を始めました。しかし、どこも住民の反対が強く受け入れが決まらないため07年に国による「申し入れ方式」も取り入れると方針を変更しました。そして、14年5月「国が全面に立って取り組む」との方針を明らかにし、今年5月22日に「公募に頼る従来の方式から、国が主導して選ぶ方式に転換する基本方針」を閣議決定しました。

6月1日・2日に経済産業省資源エネルギー庁は、道内すべての自治体を対象に高レベル放射性廃棄物最終処分に関する説明会を「北海道における自治体向け連絡会」として札幌で開催しました。この説明会は非公開で行われましたが、説明会に先立つ3月には総務省から各自治体に、この問題での情報提供担当者の登録依頼がされていました。国は情報公開、透明性といいながら、上意下達・非公開の体制作りを先に進めているのです。このような行為は自治体を下請け機関と見る国の体質の表れで、国民・住民無視の国の姿勢を許してはなりません。

日本原子力研究開発機構の前身、「動燃」等で地質の研究者として30年間働いた、「土井和巳」氏は、世界中の高レベル等の放射性廃棄物処分候補地を見て「地球上でも特に活動の激しい地殻変動地帯に位置し、多量の降水量があるわが国内で地層処分することは事実上不可能」と断言しています。全国交流会では、「核のゴミ」問題に詳しい原子力資料情報室の「澤井正子」氏においで頂き高レベル放射性廃棄物の地層処分問題と国の動きを考えます。是非「全国交流会」に参加して下さい。

2015年6月8日

ほろのべ核のゴミを考える全国交流会実行委員会  
代表実行委員 鷺見 悟  
久世 薫嗣  
東 道

## ほろのべ 核のゴミを考える 全国交流会及び講演会の日程

と き 8月1日(土) 13時00分～8月2日(日) 10時まで

ところ 交流会—豊富町セミナーハウス

豊富町西豊富(電話 0162-82-2784)

講演会—豊富町定住支援センター多目的ホール

豊富町東1条(電話 0162-82-2211)

日 程 8月1日(土)

13時00分 受付開始

14時00分 開会 主催者あいさつ

14時10分 講演会

テーマ 地層処分へ・・・国の動きを見る

講師 澤井正子(原子力資料情報室 核燃料サイクル問題担当)

16時00分～ 夕食準備・夕食

18時00分～ 交流・分散会

21時00分 自由交流

22時00分 就寝

8月2日(日)

8時00分～朝食

9時00分～後かたづけ

10時頃から 現地見学、日本原子力研究開発機構への申し入れ

参加費 宿泊料 2500円(高校生 1300円、小中学生 800円) + 夕食代 500円  
+ (2日の朝食代、昼食代は実費で別に徴収)

主催 ほろのべ核のゴミを考える全国交流会実行委員会

連絡先(申込先) 核廃棄物誘致に反対する道北連絡協議会事務所(工房レティエ)

北海道天塩郡豊富町福永 久世薫嗣(くせしげつぐ)

FAX 0162-82-1300 TEL 82-1300 携帯 090-8898-0667

申込みはFAXで7月27日(月)までをお願いします。

参加申込み 別紙

交流会と講演会会場までの地図



